

今日は、北九州市立文学館が平成二十八年度に募集した第七回「あなたに愛いたく生まれてきた詩」コンクールの中から、北九州市小倉北区の小学一年生、金子朋奈さんの詩を紹介いたします。本人の朗読でお聴きください。

『おじいちゃんのでんわ』

北九州市立中井小学校一年 金子朋奈

パパがおもそうにもってかえってきた

まっくろいはい

くるくるのコード まあるくならんだすうじ

これなあに？

おじいちゃんのでんわだよ

でんわ？ ポケットにはいらぬいよ！

といったら パパはおおわらいして

おうちからかけるでんわだよ

おじいちゃん とものたんじょうびには

まいとすれずに

おめでとうって でんわしてくれてたでしょ

これでかけてたの？ これつかえるの？

パパがかべのあなにコードをさしこむと

チン とおとがした

じゅわきをみみにあてると ツー

じゅんぴかんりよう！っていつてるみたいだ

おじいちゃんは きよねん なくなった

でも このでんわのむこうには

すぐそこにおじいちゃんがいるみたい

だから

ツーっていつてるでんわのむこうに

ちよっと はなしかけてみた

もしもし おじいちゃん？

とも いちねんせいになったよ

おともだちもいっぱいできたよ

しょうがっこう とつてもたのしいよ

てんごくでも とものこえ きこえてる？

ともちゃん にゆうがくおめでとつ

しょうがっこう がんばれ！

おじいちゃんのいつものやさしいこえが

きこえてきそうだ

いかがでしたか。朋奈さんは、優しいおじいちゃんが大好きだったのですね。そして、おじいちゃんも朋奈さんとふれ合うことをとても楽しみにしていたのでしよう。

思い出がいっぱいあった黒電話。朋奈さんは、おじいちゃんに話したいことが、まだまだいっぱいありました。もっともっと、おじいちゃんとふれ合いたかった。

みなさんも、家族や身近な人のことが心に浮かんできて、気持ち「ホツ」と温くなることはありませんか？

それは、その人の温もりが心に深く残っているからかもしれない。

人は生まれてからずっと、家族や身近な人など、誰かとつながって生きていきます。その中で言葉を交わしたり、ふれ合ったりします。そこに、優しさや温もりがあれば、素敵につながりができるのではないのでしょうか。

では、また。